

「2023年度韓国・延世大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部4年 藤本 昇大

- ① 今回のプログラムを通して、私は国際経験を積むことの重要性和英語力向上をさせる必要性を実感した。プログラムに参加するまで、私は海外経験が全くなかった。しかし、プログラムで出会った他国の学生たちは、海外経験が豊富で、ほとんどの学生が複数国家で過ごした経験があり、英語も堪能だった。そういった学生との交流で私は学生のうちに英語力を向上させ、もっと彼らと円滑にコミュニケーションを取りたいと感じるようになった。また、国際経験をもっと積むことの重要性も痛感した。今回は三週間しか滞在できなかったが、それでも異なる食文化にふれたり、異なる環境で育った人々と交流したりするのは自分の知らない世界を知れる機会だと感じたし、とても刺激的で楽しかった。もちろん、日本と比べて不便に感じることもあったが、それさえ真新しく、楽しく感じられた。その意味で今回のプログラムに参加できて良かった。4月から私は大学院に進学するが、院では一年休学して海外経験を積み、英語を真剣に学習したいと考えている。その1年間でさらにたくさんの事に触れていきたい。
- ② 海外での経験
海外での経験として dmz ツアーに参加した際の事を記したい。韓国到着後最初の休みに DMZ のバスツアーに参加した。DMZ 内では軍隊が駐在していたり、地雷の注意を促す看板があったりと普段日本にいると経験し得ないことを経験できた。また、韓国が北朝鮮と休戦中であることを再認識させられた。私は国際政治学を専攻しており、朝鮮半島での摩擦について学ぶこともあったが、それでも本の中での出来事だった。しかし、実際に紛争が起こった場所をおとずれ、紛争の最前線にいったことで朝鮮戦争に関する知識が深まっただけでなく戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶ機会となった。
- ③ プログラムの内容
今回のプログラムでは、語学堂で韓国語を学ぶだけではなく UIC の授業を受ける機会もあった。語学堂の授業では、韓国語をみっちり学んだが、私が初心者だったこともあり、基本的な文法や単語を学ぶにとどまったが、なんとか初歩的な内容を理解できるようになった。UIC の授業の感想については後述するが、日本の授業と比べて授業時間が異なったり、授業時間中に教授の裁量で休憩時間が設けられたりしていて大変興味深かった。
- ④ 進路への影響
今回のプログラムを通して、私は自分の視野を広げる必要性を痛感し、海外留学をしたいと考えるようになった。具体的なプランについてはまだ決めかねているが、英語力を強化することが自分のキャリアの可能性を広げるだけでなく、海外でさまざまな文化や多様な価値観を持つ人とふれた上で、自分のキャリアや人生を選択したいと考えるようになった。
- ⑤ 안영하세요
- ⑥ UIC の授業は京大の授業と比べよりインタラクティブで学生も積極的だったように思った。自分が選択した授業もハワード先生の授業も自分の専門分野と重なっている部分も多かったのものでそこまで高度だとは思わなかったそれでも特に特別講義は大変面白かった。講義内容は、韓国の歴史を一通り外観した後、韓国の経済発展の構造とそのモデルの現代への影響を論じるというものだった。韓国の歴史は一通り知っていたため特段興味を引く部分はなかったが韓国の経済構造に関する議論は大変興味深かった。またそれと似た構造が現代の k-pop に見られるという事実は目から鱗で、普段娯楽の一つとして楽しむ k-pop の持つ根深い課題を思い知らされた。私は法学部に所属していたが、法律には関心がなく、労働関連法や民法等を深く学ばず卒業したが、授業を通してそれらの法律の重要性を再認識させられた。帰国後はそれらの法律について学ぶ機会を持ち、それらの法律が制定された背景を含め理解を深めたい。